

# 野口晴哉と社団法人整体協会50年の歩み

年 月	時代	本部	組 織 関 係	著 作 物
明治44年 9月 大正 2年   8年 12年 9月			社団法人整体協会創設者・野口晴哉、東京上野に生まれる 漢方医の叔父の許に預けられる。ジフテリアを患い喋ることが不自由だったため、物を書いたり、読書をして幼少期を過ごす。また、来日したクライスラーの演奏を聴き、音楽に目覚める 12歳で関東大震災を体験。傷病者に対し本能的に触手を施したところ病状が快復、以後これを天職と自覚し古今東西の医学書を読み、健康法を独自に探求して、全生論の基盤を築く	
15年 4月 昭和 2年		入 谷	治療家として入谷に道場を開く 愉気と活元運動を主体とする野口法に基づく「自然健康保持会」を設立 16歳で「健康に生くることが自然順応の姿である」と主張する『全生訓』(16頁参照)を記す 個人指導と併行して野口法講習会、活元運動講習会が始まる 日暮里に道場を移す。会員数千名を越す	
3年 5年		自 然	日暮里	自然健康保持会機関誌 『全生』発刊 『全生語録』
6年 8年 9年 10年		健 康	日本治療師会評議員に推挙される 下落合に道場を移す	自然健康保持会機関誌 『全生の友』発刊
12年 14年 2月		保 持	下落合	『療病談義』全3巻
16年 18年 2月 19年10月 20年 3月 4月 7月		社 団	I 整体操法制定委員会を設立し、治療理念の確立及び諸療術の体系化を図る 整体操法の普及の為、東京水道橋で第1回整体操法講習会を開く 下落合道場が空襲により被災 下落合に新道場を開く 代々木にも道場を併設する 新潟県水上村に会員の子供を連れ疎開。寺を借りて整体操法を行なう。母親の為の育児講座を開催する 整体操法の指導者養成機関として「整体操法協会」を設立 復興者救済政策の一環とし、山口県民生部との共催により整体操法講習会が開催される(県下4カ所320名)	『整体操法読本』
22年 1月 3月		法 人	II 体癖論の基礎確立	整体操法協会機関誌 『全生』発刊 『治療の書』 整体操法協会会報『はばたき』発刊 その後、同誌を『全生新聞』と改名
23年 26年 28年		整 体	体癖論に基づく体癖別整体操法を発表 「整体操法協会」を「整体協会」に改名 体癖論に基づいた整体体操を発表 体癖論の分類の客観化を図る為の体量配分計第1号完成 これまで一貫して主張してきた自然健康の理念に、治療ではなく、体力発揚を目的とした整体法を取り入れ「社団法人整体協会」を設立。文部省体育局より認可を受ける。 (東京、東海、関西、広島、山口、九州、及び北陸の7支部を設置) 野口晴哉 会長に就任 四国支部設置 関西支部を大阪支部に改名 電気式体量配分計完成 京都及び兵庫支部を設置 瀬田本部道場建設事業始まる	
29年 1月 31年 4月 5月		協 会	II 瀬田本部道場開館 福岡支部設置 潜在意識教育法講座始まる 九州支部を佐賀支部に改名 体量配分計の特許を取得 米子支部設置 総理府主催の「体力づくり国民会議」に加入する 青少年活動 (ACS) 始まる 技術職員制度導入 全国各地で活元会が開かれるようになる 岡山支部設置	『整体体操ノート』 『活元運動について』 『平衡要求の二方向』 『活元生活入門』 『叱言以前』 『出産前後』 『風邪の効用』 『健康の自然法』 『全生季刊』発刊
37年		時 代		社団法人整体協会機関誌『月刊全生』発刊  『潜在意識教育』
38年12月 39年 1月 3月 40年 6月 41年 3月 42年 3月 5月 8月 43年 5月		代		『整体入門』東都書房より刊行

44年12月	社 団 法 瀬 人 整 体 協 田 会 時 代	小田原地区道場開館	【育児の本】 【季刊全生】発刊 【羨の時期】 【叱り方褒め方】
45年 3月		阪神地区道場開館	
8月		第1回活元運動東京大会開催（於：駒沢体育館 参加3000名）	【体癖Ⅰ】 【病人と看病人】
46年 2月		長崎支部設置	
3月		第2回活元運動東京大会開催	
5月		東京銀座にて富士ゼロックスとの共催により体癖展を開く	
11月		第3回活元運動東京大会開催	
47年 5月		北海道支部設置	
48年 9月		岡山県道場開館	野口昭子著『子育ての記Ⅰ』 【人間の探求】 【体運動の構造Ⅰ】 野口昭子著『子育ての記Ⅱ』 【健康生活の原理】
49年		四国支部を香川支部と愛媛支部に分割	
50年			
51年 6月		野口晴哉会長没（享年64歳）	
7月		木内信胤 会長に就任	
52年 4月		第1回パリ活元会来日	【背く子背かれる親】 【整体法の基礎】 【体運動の構造Ⅱ】 【誕生前後の生活】 【体癖Ⅱ】 【嫁と姑】上・下
9月		箱根野口晴哉記念館開館	
54年 1月		新整体コンサルタント資格発効	
2月		活元コンサルタント規則施行	
3月		静岡及び長野支部設置	
6月		東海支部を改名し、愛知支部とする	
55年		野口晴哉先生を偲ぶ活元運動全国大会始まる	野口昭子著『朴庵の下駄』 【碧巖ところどころ】 【思春期】 【野口晴哉著作全集】 刊行（第1回記本）
56年 6月		野口晴哉先生を偲ぶ音楽の夕べ（於：学習院百年記念講堂）	
57年 5月		小田原支部が神奈川支部に名称変更	
8月		スペイン活元会来日	
58年 3月		福岡地区道場開館	
7月		京都研修所開設	
59年 9月		第4回活元運動東京大会開催	
12月		第1回子供整体教室開催	英訳『整体生活入門』 野口昭子著『時計の歌』 【愉気法Ⅰ】 【偶感集】 英訳『風邪の効用』
60年11月			
61年 6月	野口晴哉先生を偲ぶ音楽の夕べ（於：日本青年館ホール）		
9月	吉識雅夫 会長に就任		
11月	設立30周年記念活元運動全国大会（於：品川プリンスホテル 参加5000人）		
62年10月	ヨーロッパ合同活元会（於：フランス・パリ）		
63年 9月	本部新館に事務局移転		
平成 1年 2月	本部新館に稽古場開館		
9月	『月刊全生』300号記念増刊号刊行		
2年 5月	ニューヨーク活元会（第1回）		
3年 3月	京都研修会館開館		
3月 3月	ニューヨーク活元会（第2回）		
6月	整体法研究所創設（所長：野口裕之）	英訳『叱り方褒め方』	
11月	野口晴哉先生を偲ぶ音楽の夕べ（於：東京カザルスホール 於：大阪いずみホール）		
4年 2月	ニューヨーク活元会（第3回）		
9月	本部道場改修工事着工	【女である時期】	
5年 5月	本部道場改修工事完成・記念活元会		
6月	木内信胤 会長に就任		
12月	野口昭子 会長に就任		
7年 1月	阪神大震災による阪神地区道場被災	【風声明語Ⅰ】 【大絃小絃】	
8年 6月	野口晴哉先生没後20年祭並びに野口晴哉墨蹟展（於：本部道場）		
10年 6月	整体研究所を「身体教育研究所」と改称		
10月	身体教育研究所の職員制度創設	野口昭子著『道の空』 【風声明語Ⅱ】 【野口晴哉著作全集】 完結 【整体入門】筑摩書房より刊行 【風邪の効用】筑摩書房より刊行	
11年11月			
12年 9月			
14年 1月			
6月			
15年 2月			
16年 7月	野口昭子会長没（享年87歳）		
細川護熙 会長に就任			
17年 7月		野口昭子著『見えない糸』	
10月	【月刊全生】500号		